

# ビーだま

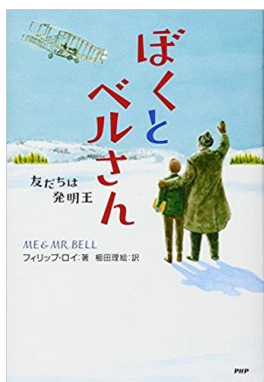
ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2017年1月～12月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介します

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町5番1号  
電話 076-461-3200  
平成30年4月23日発行（年1回発行）

## ぼくとベルさん 友だちは発明王

フィリップ・ロイ／著 櫛田理絵／訳 PHP 研究所



エディは、数学は得意なのに、文字の読み書きが上手にできません。友達や家族にばかにされてくやしい思いをしていましたが、発明王のベルさんはエディのかしこさに気づき、友だちとしてみとめてくれます。

ようやく自分に自信を持てるようになったエディは、数学で家族の役に立とうと考えます。そこで、かつ車とロープを使ったある計画をこころみました。

## 奮闘するたすく

まはら三桃／著 講談社



佑は認知症の祖父に付きそってデイサービス施設に通い、宿題のレポートを書くことになりました。

何でも教えてくれる職員のリニさんはインドネシア人だし、通っているお年寄りも個性あふれる人ばかりでびっくり。でも、いちばんおどろいたのは、祖父が「おゆうぎはいやだ」と逃げ出してしまったことでした。



## 笑う化石の謎

ピッパ・グッドハート／著 千葉茂樹／訳 あすなろ書房

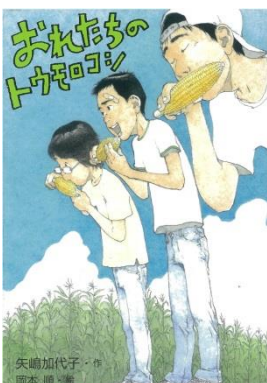
採掘場で働くことになったビル。変わった化石には値段がつくと知り、採掘中に化石を探ようになります。

ある日、足をすべらせ採掘場の溝に落ちたビルは、そこでワニのような化石を見つけます。めずらしいものにちがいないと確信し、いとこのアルフと協力してワニの頭を掘り出すことにしました。



## おれたちのトウモロコシ

矢嶋加代子／作 岡本順／絵 文研出版



田舎に引っこしてきた竜也は、同じ転校生の真琴、農家の建と仲良くなります。夏休みに三人で旅行をしようと盛り上がりますが、お金が足りません。そこで、トウモロコシを作って売り、旅費をかせぐことにしました。

ところが、カラスに種を食べられたり、台風がきたり、苦勞がいっぱい。畑を守ろうと三人は知恵をしばります。

## ぼくらの原っぱ森

ジュリア・グリーン／作 杉田七重／訳 スカイエマ／絵 フレーベル館



原っぱ森に遊具はありませんが、木登りにぴったりな木や、秘密基地にうってつけの場所があります。近くに住むノアは、森で遊ぶのが大好きでした。

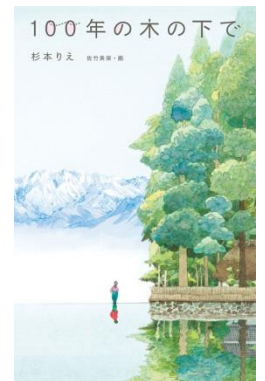
ところが、森をつぶして家を建てる計画が持ち上がります。ノアと仲間たちは、森を守るために力を合わせ、次々やってくる大人やショベルカーに立ち向かいます。



## 100年の木の下で

杉本りえ／著 佐竹美保／画 ポプラ社

立山連峰のふもとにある祖母の古い家には、大きな栗の木と小さなお地蔵さんがあります。お地蔵さんに5円玉をそなえている人を見た千尋は、おさい銭箱を作ろうと思いつきました。できあがったおさい銭箱を見せると、いつも無愛想な祖母は大笑い。そして、お地蔵さんと栗の木にまつわる家族の秘密をそっと聞かせてくれました。



## メキシコへ わたしをさがして

パム・ムニョス・ライアン／作 神戸万知／訳 偕成社



ひいおばあちゃんと暮らすナオミと弟のもとに、7年前に別れた母スカイラがとつぜんあらわれました。スカイラは自分勝手な理由でナオミだけをひきとり、足が不自由な弟のことはひいおばあちゃんに押しつけようとしています。

そんなスカイラに反発したナオミたちは、父親を探しにメキシコへと旅立つことにしました。

## ぼくたち負け組クラブ

アンドリュー・クレメンツ／著 田中奈津子／訳 講談社



読書好きのアレックは、放課後だれにもじゃまをされず本を読むために、〈負け組クラブ〉という読書クラブを作りました。ところが、だれも入らないと思っていたクラブに入部希望者が次々とやってきます。アレックを〈本の虫〉とからかうケントは、その様子が気に入りません。ちょっかいを出してはアレックをこまらせます。

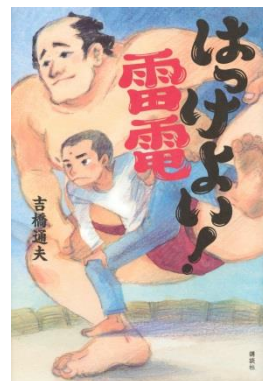


## はっけよい! 雷電

吉橋通夫／著 講談社

相撲を観ていた太郎は、ふっとんできた力士の下じきになり気を失います。目が覚めると、そこは江戸時代。史上最強の力士と言われている雷電関のうでの中にいました。

そぼくな食事や、力士をかかえる藩同士のあらそいなど、江戸での暮らしはめずらしいことばかり。そんな中、太郎はなんとか現代にもどろうと雷電に協力をたのみます。



## 走れ!! 機関車 (絵本)

ブライアン・フロッカ／作・絵 日暮雅通／訳 偕成社



19世紀後半、広大なアメリカ大陸の端から端へ、人や物を運んだ大陸横断鉄道。馬車や船では何か月もかかる道のりも、鉄道なら一週間で行けるようになりました。

車掌のかけ声を合図に、機関車が走り出します。海のように広い大草原をこえ、おかしな形の岩のあいだをぬいながら、休みなく西へ西へとかけぬけます。